

ホワイトスペース活用によるエリアワンセグでの災害情報等の配信



- ・H17年4月 10町村が合併して誕生
- ・面積：804.93km²(東京23区とほぼ同じ)
- ・人口：76,976人(東京都の約0.6%)
H22.7月末(住民基本台帳人口)

【人口の推移】年平均伸び率 -1.1%

【高齢化率】 H10 全国16%、栗原市25%

H20 " 22%、 " 31%

宮城県栗原市
平成22年9月10日

岩手・宮城内陸地震発生（H20年6月14日）



▲荒砥沢ダム付近



▲駒ノ湯温泉付近



▲避難の様子



▲避難所の様子

1 災害発生直後

地震により孤立した集落が携帯電話等の電波が弱いエリアだったことから、災害発生直後に正確な現地情報を得ることが困難だった。

2 避難所開設後

避難所に避難する市民は、昼間と夜間、初日とそれ以降などで流動的に推移することから、被害の最新情報や避難生活に係る情報を、均一かつ正確に伝達することが困難だった。

ホワイトスペースを活用する「栗原市災害情報緊急ホットラインシステム」の概要

システムの概要

災害発生直後に通信手段を確保し、被災者の救助や復旧対応の情報共有化を実現するシステム。

このシステムは、通信にインターネットを用い、映像・音声通話などを用いるほか、エリアワンセグのコンテンツ伝送などを可能とし高い汎用性を持たせる。

期待される効果

災害時に情報通信手段を確保し、危険箇所や避難施設などの正確な情報を共有でき、災害対応の効率化が見込める。

また、住民のワンセグ携帯電話を活用することによって、市からの情報を動画や音声で直接伝えられることから、被災者の安心・安全の確保に役立つ。



栗原市によるホワイトスペースの利活用について

1 災害発生時のホワイトスペース利活用

(1) 情報伝達ツールとしてのエリアワンセグへの期待

- ・紙媒体に依存しない情報提供手段を確保し、一斉配信で正確で迅速な情報伝達を可能とする。
- ・映像、音声、テキストなどのデータや、市長からのメッセージ、地域の被災情報、被災者支援情報を発信する。

<総合防災訓練におけるデモンストレーション(9月1日)>



▲エリアワンセグによる情報提供



▲エリアワンセグによる情報提供2



▲エリアワンセグの送信機等

2 平常時のホワイトスペース利活用

(1) 日常的な行政情報の発信手段

- ・定期的な行政情報の発信や大規模イベント等での活用を検討する。
- 将来的には、市民による市民のための情報発信への活用を目指す。

(2) 高齢化・過疎化が進む地域への普及

- ・高齢者の「情報過疎」が課題となっていることから、市内の独居老人や高齢者世帯に対し行政情報を適切に伝える手段として活用を検討する。